

第47回 全国学童保育 指導員学校 北関東会場

放課後児童支援員等の資質向上のための研修会

本研修会は、学童保育指導員(放課後児童支援員等)の資質向上のための研修です。全国10会場で開催し、昨年実績で6,000人以上の方が子どもたちの放課後の生活を豊かにするために学んでいます。どなたでも参加できます。

オンライン(zoom)による研修 **受講料 2,000円**
2022年6月26日(日) 9:15受付(入室)

| | | | | |
|------|--------|-------|-------|-------|
| 9:15 | 10:00 | 12:00 | 13:00 | 16:00 |
| 研修内容 | 受付(入室) | 全体会 | 休憩 | 15講座 |

● 全体会 ●

基調報告 全国学童保育連絡協議会

● 全体講義



コロナ禍で考える！ 子どものからだと心

【講師】野井真吾氏 (日本体育大学体育学部教授)

- 1968年東京都生まれ。東京理科大学・専任講師、埼玉大学・准教授を経て、現職(日本体育大学体育学部教授)。
- 子どものからだと心・連絡会議議長。学校保健学、教育生理学、発育発達学、体育学を専門領域として、子どもの“からだ”にこだわった研究を続けている。
- 主な著書に、『子どもの“からだ”と心 クライシス』(かがわ出版)、『新版からだの“おかしさ”を科学する』(かがわ出版)、『子どものからだと心白書』(ブクハウス・エイチディ)、『子どもの体温と健康の話』(芽ばえ社)、『子どものケガをとことんからだで考える』(旬報社)など多数。

主催：全国学童保育連絡協議会
埼玉県学童保育連絡協議会

■ お申し込み・参加費振り込み ■ 下記 URL をご覧ください。

<https://drive.google.com/file/d/1HRU-4VkjN5tROs9kDZScp9p42U2162XK/view?usp=sharing>

- 1台のパソコンで複数の方が受講可です。ただし受講料は1名あたり2,000円となります。その場合受講は1つの講座になります。受講料2,000円を振り込みのうえお申し込みください。
- 携帯電話会社が提供するキャリアメール(**@docomo.ne.jp など)ではお申し込みになれません。



● 振込先口座

ゆうちょ銀行 019店 当座預金 0093727
(郵便振替 00160-7-93727)
名義 埼玉県学童保育連絡協議会

- 申し込み用メール
- 申し込み締め切り
- 申し込み受付後

gakudoust@gmail.com (埼玉県学童保育連絡協議会)
6月13日(月)

6月15日までに、資料や接続練習会、ZOOMの接続情報等、受講に必要な事項をまとめ、指定のメールアドレスへ送ります。

● 接続練習会

6月20日(月)、午前10:00～11:30、午後8:00～9:30にZOOMの接続練習会をおこないません。ZOOMの操作に不安がある方は練習会への参加をおすすめします。

● キャンセル

6月20日(月)までに、メールでご連絡ください。事務費(振込手数料)を差し引いた額を返金いたします。6月21日(火)以降のキャンセルは返金できません。

申し込み・
問い合わせ

埼玉県学童保育連絡協議会

〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町4-147-1 藤本ビル3階
TEL. 048(644)1571 FAX. 048(644)1572

第47回 全国学童保育指導員学校・北関東会場 講座

*講座の末尾の番号は、全国学童保育連絡協議会が作成した「指導員の研修課目(試案)」に該当するものです。

● 入門講座 指導員として基本的な事項を学びます。

1 学童保育とは何か、指導員の仕事・役割は何か

【講師】佐藤正美 (埼玉県さいたま市指導員、全国連協) I-1-④ II-1-① III-1

学童保育は共働き、一人親家庭の親の労働を保障し、子どもたちの生活を守る場です。指導員は、日々子どもたちの生活をつくることを通して、親が安心して働くことを保障しています。そのためには、子どもたちの信頼に応える力量や指導員としての職業意識も求められます。学童保育の仕事・役割、指導員である事から生じる倫理等について学びます。

2 学童保育の一日と指導員の仕事・毎日の実務

【講師】河野伸枝 (埼玉県飯能市指導員) II-3

新任の頃は子どもと一日、どう過ごせばよいか悩む方が多いのではないのでしょうか?宿題、おやつ、あそび等の流れをどうするか、行事などの取り組みをどうするか、年間の流れ、一日の流れをどうつくるかを具体的に学びます。また、指導員の仕事は、保育以外に打ち合わせ等の事前準備、保育記録などの事後のこと、保護者や学校、行政との連絡などもあります。それらの実務についても学びます。

3 日々の記録から実践の記録へ

【講師】橋本晶子 (埼玉県坂戸市指導員) V-1

日々の保育を記録することは、指導員自身が保育内容を振り返って確かめ、より豊かな実践をつくる上で大切な仕事です。記録をもとに指導員どうしが話し合い、検討し、学びあうこと、この積み重ねが実践の向上につながります。また、国の「放課後児童クラブ運営指針」にも記録の必要性が示されています。実践を記録することの意味から、実際に記録を書いてみることを学びます。

*理論講座4～12、実践講座13・14、運動に関わる講座15は裏面をご覧ください。

第47回 全国学童保育指導員学校・北関東会場 講座

*講座の末尾の番号は、全国学童保育連絡協議会が作成した「指導員の研修課目(試案)」に該当するものです。

●理論講座 子どものことをより深くとらえるために専門的に学びます。

子どもの発達のしくみを学ぶ

【講師】高橋浩平 (東京都杉並区立桃井第一小学校) III-1 IV-2

指導員の仕事を進めるうえで、子どもを深くとらえることが求められます。さらに今日、様々な要因から子どもたちの育ちに課題があるケースが多くなっていることから、子どもをよりよいに与えることが求められています。学齢期の子どもの発達の特徴や、今日的な特徴を理解した上で、子どもたちの成長をどう促していくかを学びます。

子どもの権利条約第31条に学ぶ ~遊びは子どもの主食です~

【講師】森本 扶 (埼玉大学講師・子ども白書編集委員長) III-1 IV-2

「子どもの豊かな成長・発達を保障する『子ども期』の充実のためには、子どもの遊びと文化は不可欠の権利であり、特に『遊びは子どもの主食』なのです。(増山均氏)。子どもの権利条約31条は、休息・余暇の権利、遊び・レクリエーションの権利、文化的生活・芸術への参加の権利を定めています。学童保育は子どもたちに遊びと生活を保障する場。子どもの権利条約を学童保育にどう活かしていくかを学びます。

発達障害の子どもたちの理解と支援

【講師】三木裕和 (前鳥取大学教授、元特別支援学校教諭) III-4

生活の中で落ち着かない、ひとの話が聞けない、言葉の前に手が出てしまう「ちょっと気になる子」。「LD」「ADHD」等、発達障害だと特別扱いすることで解決することではありません。そうした子どもをどう理解し、支援していくか、学童保育の生活の中で何ができるかを考えましょう。

子どもとのかかわり方 ~作業療法士の視点から~

【講師】仲間知穂 (こども相談支援センターゆいまわる代表) III-6-③

作業療法士には、“「生活」と「遊び」から子どもの発達支援をする”方たちがいます。まさに学童保育と同じですね。作業療法士の視点から、子どもの「生活」や「遊び」を捉え直してみよう。子どもたちの行動一つひとつを見る目が変わります。また、子どもの不思議な行動や、大人には「困った」と思える行動にも、ちゃんと理由があることがわかります。どの子どもにとっても、指導員にとっても、毎日の生活が楽しくなるヒントが満載です。

教室の中の子どもたち ~学校と学童保育~

【講師】土佐いく子 (和歌山大学講師、元小学校教諭) III-2-②③

学童保育の子どもたちは、学校と学童保育で生活しています。学校と学童保育とで、見せる顔が違うこともよくあります。指導員は、学校での子どもの様子を知ることで、子どもたちへの理解が深まります。学校現場は、いじめや学力などたくさんの課題・問題を抱え、多くの教師は悩みながら子どもと向き合っています。学校は今どうなっているのか? 学校・教師と学童保育がどう連携して、子どもを支援していくかを学びます。

ネット世界の子どもたち ~ネットやSNSと付き合いリテラシー~

【講師】渡辺雅之 (大東文化大学教授) III-2-④

今、スマホを持つ、持たないにかかわらず、ネットと子どもは切り離せない関係になっています。ネットは便利な反面、特に子どもにとっては、重大な危険をはらんでいるものでもあります。ネットとどう付き合っていけばいいのか、指導員も保護者も悩んでいる方が多いと思います。“ネット社会に生きる子ども”を理解した上で、大人の私たちができることを一緒に考えていきましょう。

児童虐待を考える ~虐待は子どもの何を奪うか~

【講師】小宮純一 (ジャーナリスト) III-1-② IV-6-⑤⑥ IV-7-③

10 児童虐待は、無くなるどころか、最近も児童虐待のニュースが後を絶ちません。学童保育は、子どもの生活と密接に繋がっているため、指導員は時として児童虐待の第一発見者となる場合があります。一方で、学童保育における児童虐待も残念ながら起きています。児童虐待をなくすためには、まず児童虐待について正しく理解することが必要です。そして私たちにできることを学びましょう。今回は特に子どもの愛着に焦点を当てます。

大人に知ってほしい生(いのち)と性のおはなし

【講師】上田美和 (宇都宮市助産師) III-1-①

11 多様性を認められる社会を目指しはじめた日本。ですが、周りを見渡せば、生きる力を失い、性のことで悩み、トラブルに巻き込まれる子どもたちの姿がまだまだ後を絶ちません。大人が生と性を正しく素敵に伝えることで、それを予防していく力となります。子どもたちが性についてもなんでも相談できる大人の一人になってみませんか?

感染症とどう関わったらよいか ~新型コロナウイルス感染症の変異のなかで~

【講師】高崎麻美 (富山大学附属病院小児科助教) II-2

12 新型コロナウイルス感染症のもと、2年以上にわたって、指導員は感染症防止と子どもの生活保障の狭間で緊張した保育を強いられてきました。未知の部分が大きいウイルスとの関係では、科学的知見にもとづいて「正しく恐れる」立場が大事です。新型コロナウイルスとは? 適正な感染対策とは? 変異株の子どもへの影響は? など、子どもへの対応の留意点を学ぶとともに、過剰な感染対策は逆に子どもたちにとって問題があることも学びましょう。

●実践講座 指導員の仕事を実践的に学びます。

子どもの生活を保護者と伝え合う

【講師】鶴貝りさ (栃木県足利市指導員) IV-6

13 保護者は、わが子が学童保育に楽しく通い、育っている実感があって、初めて安心して働き続けることができます。学童保育での子どもの様子を保護者に伝えることは指導員の大切な仕事です。保護者と伝え合うことの重要性、何をどのように伝え合うのかを学びます。

学童保育の職員集団と職員会議のあり方を考える

【講師】嘉村祐之 (岩手県盛岡市指導員、全国連協) II-3-③ III-3-⑤

14 指導員は運営指針等にそって、自ら判断して対処する場面が少なくありません。ときには、同僚と意見が食い違い、すぐには一致できないこともあります。職員間で折り合いをつけ、どう対応するかを決めることが必要です。また同時に、それぞれが自分の課題意識にもとづき、継続的に子どもを観察し、ケース検討(事例検討)等を通して、職員集団としての共通理解を拡げていくことが大切です。

●運動に関わる講座 学童保育をめぐる情勢と課題、指導員の労働条件改善など運動に関わる問題を学びます。

学童保育と指導員をめぐる情勢と課題

【講師】西田隆良 (全国学童保育連絡協議会会長) I-1-②

15 学童保育は、新型コロナ感染症拡大防止の手立てを講じながら、子どもたちに「生活の場」を保障してきました。学童保育の果たす役割や重要性の社会的認知が広がった一方で、その施策のもつ脆弱さも浮き彫りになりました。あわせて、「従うべき基準」の参酌化、委託・民営化、企業参入など運営主体の変更、第三者評価の導入など、多くの課題を抱えています。学童保育の目的・役割をふり返りながら、これからの学童保育のあり方、指導員の課題を確かめあい、運動の視点を学びます。